

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000317		
法人名	有限会社 松井		
事業所名	グループホーム レジデンスポビー(ポビー)		
所在地	小樽市入船4丁目2番3号		
自己評価作成日	平成23年2月26日	評価結果市町村受理日	平成23年5月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは認知症高齢者を対象とした共同生活の場です。前身の小規模高齢者住宅から築いた協力病院との連携により、往診や栄養指導、日常生活にあわせてリハビリ指導など、健康管理面のほかにおいても安心して生活を送っていただくことができます。又、ホーム入居者によるボランティア活動をはじめ地域交流祭の開催などをとおして、地域との密接な交流をもとにした認知症生活介護に事業重点をおいて運営を行っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigocho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000317&amp;SCD=320">http://system.kaigocho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000317&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、天狗山を背景に、四季の移り変わりを間近に感じられる高台に位置しています。開設して9年が経過し、利用者の高齢化に伴う介護度の高さにより、全員での外出は困難な状況にありますが、職員一丸となって身体機能の維持や、気配り、目配り、心配りに努めている姿は、家族の安心に繋がっています。ホームが、地域の方々に見守られていることへの感謝に代えて、隣接の公園で「ホーム夏祭り」を開催しています。町内会の支援を頂き、周辺住民の方々、近隣6箇所のほかのホーム、家族等の参加により、楽しい交流が繰り広げられています。運営者は、共有空間にモニターを設置し、帰宅後も、モニターで利用者の見守りに徹しています。利用者の心身に寄り添い、日々、質の向上を目指している「グループホームレジデンスポビー」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域や自然と触れ合える、あたたかい雰囲気の中でその人らしい生活が出来よう理念を作り上げ日々実践に繋げている。	職員は、地域密着型サービスの意義を理解し、全員でホームの拠り所となる理念を策定しています。日々の業務で理念を確認し合い、ケアサービスに努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでの夏祭りにより地域の方々と交流が増え町内会の会合や行事には職員が参加している。	町内会やホーム行事には、相互の参加があり、年毎に交流が密になっています。運営推進会議や介護相談等を通し、ホームの理解に繋がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りでの行事では高齢者又はその家族を対象とした介護相談を設けアドバイスを行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月度の運営推進委員会を行いホーム運営報告の他質疑応答や避難訓練への要請などをし意見は会議で話し合いサー一日向上に活かせるよう取り組んでいる。	利用者、家族、地域住民代表、医療機関や行政職員の参加を頂き、年6回、開催されています。運営報告や災害時の連携等が討議され、ホームの質の向上に活かしています。	市担当者や地域包括支援センター職員が、参加しやすい日時設定の取り組みにより、更なる協働関係の構築に期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当窓口での相談や小樽市グループ協会で行政関係者と情報交換を行なっている。	行政とは、会議等で情報を共有しています。ホームの運営に関して適切な助言や提案を頂き、ホームの向上に活かしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の生命、身体を保護する為緊急やむおえない場合は身体拘束廃止委員会で検討し切迫性・非代替性・一時性の3つの要件を満たした場合は当施設マニュアルに沿って検討実施し常に解除する事を目標に継続的にカンファレンスを行い検討する。	職員は、内・外部の研修で、拘束に繋がる具体例や弊害について理解を深めています。更に、身体拘束防止委員会を設け、玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアの周知徹底を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	知識の向上を図り今後も事業所内での虐待はないよう防止に努め普段から言葉遣い態度などに気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度が必要な利用者様については活用出来るよう支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書(重要事項取り扱い書)と口頭で十分に説明し理解と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設け、利用者様の意見を頂いたり、ご家族ともコミュニケーションを図り、面会簿の意見欄に記入して頂けるように働きかけている。	意見が言いやすい雰囲気作りを心がけ、日々の関わり、家族来訪時や電話、内外の相談窓口の周知等で、要望を把握しています。課題は、運営に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議での意見や日常のコミュニケーションを大切にし意見を反映出来る様にしている。	管理者は、職員と話し合う機会を確保し、意見や提案を傾聴しています。課題を受け止め、就業環境の整備を含め、改善に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件を整備し、能力に応じて向上心もてるよう適材適所に配置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内部研修は介護での問題や課題を含め外部の専門家を講師に呼び実施している。外部研修も研修情報を提供し希望や職制に応じて随時参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会やお通じての情報交換の他諸行事を通じてグループホームの相互訪問もあり同業者との交流が進められている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談で本人の抱えている不安や求めている事などを聴き取り心身状態や意志を確りと把握し受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談から不安な事や求めている事などを聞き受け止める努力をしている。また、新たな要望があった場合は必ず時間を取り話し合い出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容により体調に応じて専門家の受診や主治医による往診の依頼の他状態に合わせ福祉用具の購入をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員で一緒に過ごす時間を大切にし、調理法や豆知識なども教えて頂く事もあり、お互いに支えあう関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望に添うように家族と一緒に考えたり本人の希望を家族に伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が気軽に来所できる雰囲気作りをしている。昔馴染みのスーパーや理美容院には希望に合わせて本人の生活習慣を尊重している。	高齢化に伴い、馴染みの方々や地域との交流は困難になっていますが、友人・知人の来訪受け入れや、馴染みの商業施設への利用支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通し同じ時間を共有したり言語が不自由な利用者様には職員が間に入りコミュニケーションが取れるよう支援している。食事の準備や後方付け等は利用者が協力して行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られたり在宅に戻られた方への面会やお見舞い等で付き合いは継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	上手に思いを伝えられない利用様には家族からの情報を参考にしたり日常の会話や行動から理解するよう努めている。	会話の中から利用者の思いを把握し、更に、生活歴や家族からの情報、個別の記録を参考に、利用者の視点で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者とコミュニケーションを取り生活歴を把握するようにしている。家族からも情報が得られるようお話する機会を取れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し本人の希望する生活を支援する他に本人が出来るような事等職員間で話し合い新しい事に挑戦出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は家族や本人の他主治医とも話し合いながらアセスメントを行いそれを基に原案を作成。現状が変わった時には随時見直ししている。	介護計画は、利用者、家族の意向を踏まえ、医療関係者、個別の記録を参考に職員全員で検討し、介護記録に連動しています。3ヵ月毎や緊急時には、新たに作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の生活アセスメントの様子、実践、結果、気づきを記録する事で、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の通院は職員が付き添っている。温泉行事、音楽療法、夏祭り開催など様々な楽しみ事を支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人と地域との接点を見出し周辺施設への働きかけやボランティアの協力を働きかける。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療による訪問診療の他かかりつけ医の受診も職員が付き添って送迎している。	24時間連絡体制の協力医療機関による、2週間毎の訪問診療、更に、かかりつけ医の受診も支援し、内容は、関係者の共有としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関があり健康管理や医療面での相談や助言のもと対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換、回復状況を把握しご家族との話し合いを設けホーム対応可能な段階で早く退院出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族に対し重度化終末期におけるホームの対応方針を説明している。重度化の場合家族の意向を尊重し医療機関に相談病院への移行を原則としている。	重篤時に於ける指針を作成し、同意書を整えています。急変時には、利用者、家族の意向を踏まえ、段階的に医療機関と方針を共有し、最大限の支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行いマニュアルを作成し定期的に再度確認し合い実践力を身につける様努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時にマニュアルを作成し消防署の協力の下2回の非難訓練と消火器使用方法の訓練も実施している。	消防署、地域の方々の協力を頂き、昼夜想定訓練を実施し、避難場所や備蓄品も確保しています。職員は常に意識付けに努めています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人権尊重を念頭に置き利用者の言葉掛けもプライバシーや誇りを損ねないよう配慮している。	人格を把握し、個別対応で尊厳やプライバシーに配慮しています。個別記録も適切に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の理解力に合わせ説明を短くしたり本人のわかる言葉に置き換えて説明している。自分で決める場面作りご本人の意思や希望を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活ペースや気持ち大切に、日々の生活が安心して楽しく過せるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回ホームで美容師にカットして頂いている。希望により馴染みの美容室でカット出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	彩りや季節感を盛り込んだ内容にしている。夏は畑で取れた野菜が食卓に並ぶ事もある。	好みや食事形態に配慮した食事作りを支援しています。菜園での収穫物や、おやつ作り、外食は、楽しさが増すようです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量、水分量は個人別にチェックし食事は栄養士のカロリー計算の下厨房専属社員が栄養バランスを考えながら食事作りに取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて嗽、歯磨き、義歯洗浄を行い場合によっては歯科医に往診して頂き磨き方の指導等行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて表情や態度からも早くに気づくように努めている。失禁時も他の利用者に気づかれないよう配慮している。	排泄チェック表で、一人ひとりに合わせた声かけや誘導で、羞恥心に配慮したトイレでの排泄支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便間隔を把握し食物繊維の多い食材、水分は補給、適度な運動など服薬だけに頼らず可能な限り自然便に繋げる様に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の健康状態を確認しながら、週2回を原則として実施している。	体調や意向に配慮し、同性介助による、週2回の入浴支援を行い、時には、シャワーも利用しています。また、温泉施設を利用し、地域の方々との触れ合いに繋がっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も本人の好きな時に休んでもらい夜間眠れない時は温かい飲み物を提供したり職員と落ち着くまで会話をするようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更や追加がある場合は申し送り等で職員全員が確認、把握出来るようにしている。処方箋はファイルに綴りすぐに確認出来る様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力や趣味、得意な事を活かせるよう支援している。手芸やゲーム、音楽療法などの楽しみも行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬以外は日常的に散歩へ出かけたり希望によっては買い物にも出掛けている。	冬期間の外出はなかなか出来ませんが、天気の良い日は、希望に沿って散歩や買い物、ほかのホーム訪問等で気分転換し、更に、四季折々の外出行事で、外気に触れる機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や身体状況等をご家族に理解して頂き金額を決めて所持している。買い物の際には自分でお金を支払う事が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字が書ける利用者は家族へ手作りの葉書に一言添えて出したり電話等でお話したい希望がある時は随時支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と職員と一緒に作成した季節感のある作品や装飾品をリビングに飾り好きな音楽やDVD等を見ながらゆったりとした時間を過せるよう工夫している。	学生下宿を改造した建物です。居間は、少し手狭な感じがありますが、廊下は、スペースがあり、生活リハビリにも活用されています。四季折々のフェルトを使った作品が掲示され、温かみのある雰囲気となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには大型テレビがあり自由にテレビを観たりお茶を飲みながら談話出来る。また廊下にもベンチを設置し好きな時に好きな場所で過して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は馴染みの調度品やテレビ等自由に持ち込み居心地良く過されている。	バス・トイレ付きで、ミニキッチン、棚、クローゼット、収納ベッドが設置されています。空調にも配慮し、利用以前の暮らしが継続された佇まいになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見慣れた環境を変えず混乱しないよう配慮し残存能力を見極めて1人ひとりおわかる力を活かして自立した生活が送れる様に創意工夫をしている。		